

# 保護者の要望に沿って待機児童対策を 橘祥朗の一般質問③

橘祥朗市議は、「待機児童対策」について、「①県は4月1日時点の速報値で初めて待機児童がゼロと発表したが、しかし潜在的な待機児童数は松江市内で116名とのこと、かくれ待機児童ともいえるべき実情はどうか。②自宅から20キロの保育所なら保護者は受け入れるべきという基準は妥当ではない、20キロでは市内全域がほぼ含まれる。③姉妹と同じ保育所に通わせたい、地元で、あるいは通勤に便利な保育所を希望することは保護者の当然の要求、保護者の要望に沿った対応を。④育児休暇明けなど年度途中の保育の需要について把握できないのか、



質問する橘市議

見込みはどうか。⑤出産後母親が家にいると、小学生が学童保育から外されることがある、改善を求めると質問。  
当局は「①6月1日現在78名が不承諾。②国の基準から見て松江市の基準は妥当。③保護者の保育ニーズに配慮するように配慮している。④入所予約制度で対応し本年度は314人すべての把握は困難。⑤育児休業中の学童保育の要望は配慮が必要な場合は認められている、今後も議論を進める」など答弁しました。

# 「交通安全対策」意見書

## 3会派提案は不採択

6月議会で共産党市議団は、「児童生徒の交通安全対策の促進」を求める意見書案を議会運営委員会が提案、全会派の賛同を求めました。

真政クラブ（南波巖会長）、市民クラブ（津森良治代表）の2会派が賛同、松政クラブ、公明クラブは賛同せず、改めて3会派代表3名の連



橘祥朗市議

名で提案しました。議会最終日7月9日の本会議で、提案者を代表して橘祥朗（共産党市議団団長）が、「通学路などでの園児や児童の交通事故などでの被害が全国で相次いでいる」

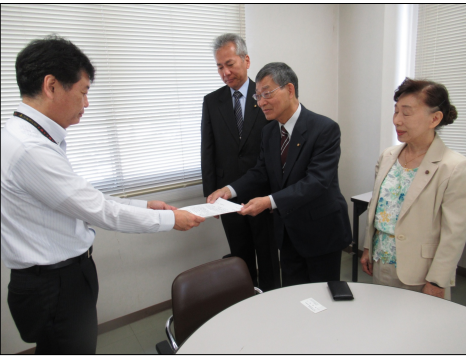
「松江市では児童生徒の重大事故は発生していないとのことだが、教育委員会に寄せられた学校からの危険箇所改修要望件数はこの5年間で延べ千件を超えるが、実施された件数はわずかに88件。予算増額が求められる」 「国に対して、児童

児童生徒の交通安全対策促進のため、財政措置の更なる拡充と、環境整備に向けた法整備を行うよう要望する」と提案理由の説明を行いました。

しかし、松政クラブは「国の動向をみて、具体的に意見書を出すべき」として反対、賛成12票の少数で不採択となりました。

松政クラブが提出した、「過疎法定」を求める意見書など3案は、党市議団も含めて全会一致で採択となりました。

# ごみ袋不足問題 職員の危機管理意識の不足等を回答



ごみ袋問題で申し入れた市議団 5月21日

ごみ袋不足問題で、共産党市議団は5月21日に松江市に対して申し入れを行い、

懇談しました。その際、文章での回答を要請し、7月1日に市議団のもとに回答書が届きましたので紹介します。

1、市民に混乱と不信を招いたことをどのように認識しているのか。

①燃やせるごみという放置できないごみの種類であり、旧袋でも他の袋でも収集する緊急対応を取るべき。

回答：4月上旬から品薄状態が顕著になったにもか

わらず、旧袋での排出や差額シール等の弾力的対応を怠った。

②袋の交換は、環境センターのみでなく、きめ細かく拠点を置くべき。

回答：交換還付手続きの準備不足のため、環境センターのみを窓口とし、支所での対応を怠った。

③ごみ袋の海外調達中止すべき。

甘さによる発注時期の遅れから生じた。  
2、4月から古い袋は使えず、旧袋の交換は4月1日から実施することを、松江市としてどのように周知したのか。  
回答：市報や自治会を通じて説明会は、平成30年11月以降行われず、情報提供が不足した。  
一連の混乱は、職員の危機管理意識の不足が招いた。職員間の意思疎通を欠き、組織が機能不全に陥っていた。職員としていかなる場合にも適切な判断ができる組織の再構築に向け職場環境を整える。

## 第12回しまね地域・自治 夏の学校

◆日時：8月17日(土)13:30～18日(日)12:00

◆場所：出雲須佐温泉ゆかり館

●(17日)記念講演…雲南市の「地域自主組織」大谷吾郎(雲南市地域振興課主幹) 体験発表…住民要求の行政施策反映 中原保彦(美郷町町議会議員) セッション①原発周辺自治体での住民投票を求める運動

●(18日)セッション②県民の実状をふまえた施策要望の展望

◆主催：しまね地域自治研究所

◆申し込み：FAX21-8998 最終締切：8/10